

日本の奇矯の一つ、富山県黒部川の愛本橋について

黒部川の下流域において、本川扇状地の扇頂部に愛本橋がある。明治中期までは木造のはね橋が架かっていて、当時は日本三大奇矯のひとつとされていた。

しかしながら、学術的には、日本三大奇矯とは、橋の構造的観点から、山口岩国の錦帯橋、山梨大月の猿橋、高知三好の葛(かずら)橋といわれていた。しかもこれらの三橋がいずれも現存していて、三大奇矯はゆるぎないものとされていた。

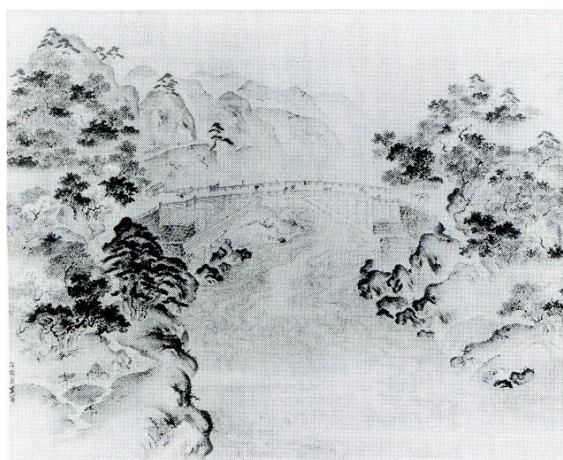
ところが、三番目の葛橋については、これが山奥にあり、観光ルートから外れているので、存在がかなりかすんでいた。そこに目を付けた各地の観光の方々により、三番目のブランドを狙って三地域の奇矯のバトルが始まった。

すなわち、第一が木曾の栈橋、第二が栃木日光の神橋、第三が黒部愛本の刎橋である。5年程前までは、三番目が葛橋であったが、ここ最近では愛本の刎橋が、現存していないのも関わらず、三番目に居座っている。学術的にいえば、愛本の刎橋そのものは猿橋の系列であり、しかも現存もせず復元もされていない。

ではなぜ愛本橋が三番目をゲットしたのであろうか。各地の方々にとっては、ベストリーになるかならないかは、観光資源の価値に行き帰ってくるほどの違いが生じてくるだけに、死活問題としておらが国自慢を押し通すために、激しい情報操作を画策した結果、ということが出来よう。

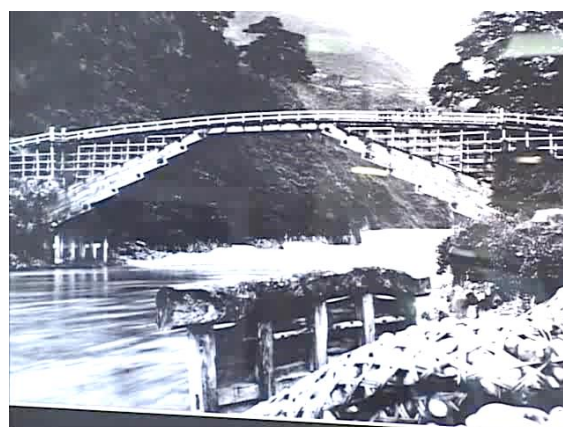
特に愛本橋の場合、加賀藩は刎橋を各地に建設しており、富山八尾の久婦須川にも愛本と同種の橋が架かっていたので、愛本橋は文化的リゾナル価値大とはいえないことはいふまでもない。

なお、上述の議論はあくまでも学術ベースのものであり、愛本橋観光を云々することではないことは自明である。



●江戸期の愛本橋(前田育徳会蔵)

江戸時代に描かれた愛本橋 HPより引用



明治中期に撮影された刎橋



現在の愛本橋(アーチ橋)